

今の鴨川について学ぼう

鴨川を未来に引き継ぐために

鴨川では、平成25年の台風18号まで、80年近く洪水のはん濫による水害に見舞われませんでした。最近の気象状況を見ると、今までに経験したことのないような大きな洪水がいつ発生してもおかしくありません。

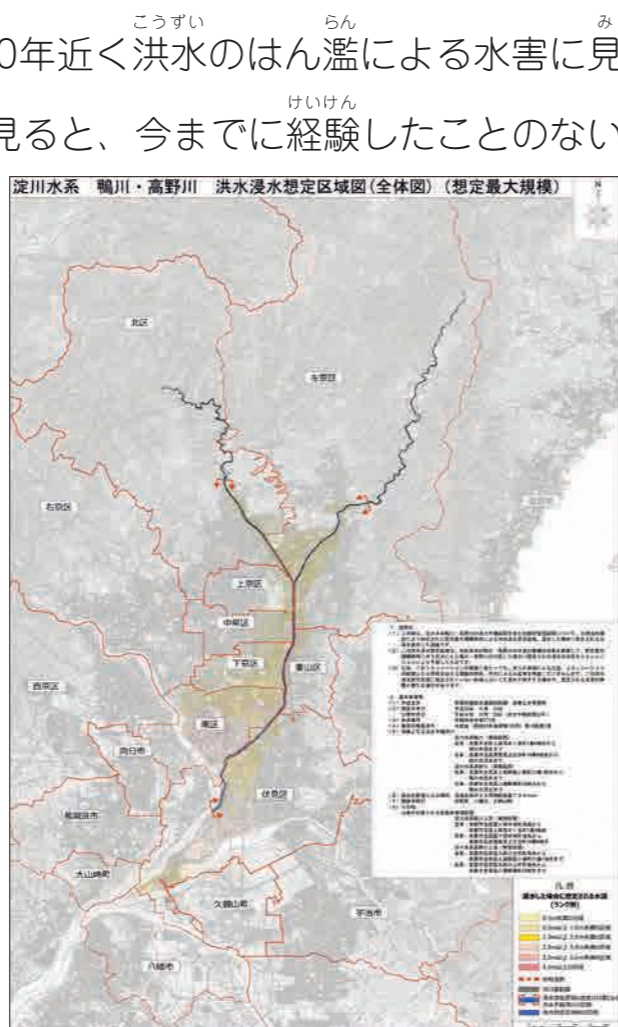
このため、鴨川で万一大きな洪水が発生し、はん濫しても安全に避難できるように、あらかじめ避難経路や避難場所を確認しておくなど、日頃から備えをしておくことが大切です。

京都府と京都市では、鴨川などの河川の洪水がはん濫したとき、みなさんの住んでいる場所がどのくらいの深さまで浸水するのか、また、どこに避難したら安全なのかということを示した「洪水浸水想定区域図」や「水害ハザードマップ」を作成しています。

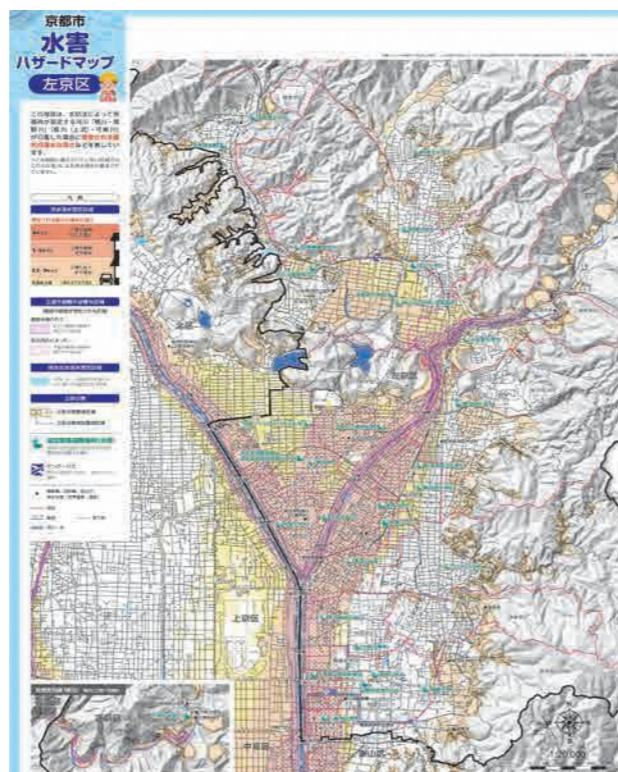
これらはホームページなどで見ることができますので、確認をしておきましょう。

- 京都府建設交通部砂防課
https://www.pref.kyoto.jp/sabo/kouzui_sinsui/01kyoto.html
- 京都市行財政局防災危機管理室
<https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/>

また、大雨のときには、テレビやラジオなどの気象情報にも注意することが大切です。



鴨川・高野川洪水浸水想定区域図



京都市水害ハザードマップ

提供:京都市行財政局防災危機管理室

鴨川は、平安京ができてから約1200年以上ものあいだ、様々な歴史の舞台になり、また、優れた文化を育みながら、都とそこに住む人々の生活に密接にかかわってきました。

そして、そのかわりには、今もなお受け継がれています。



半木(なからぎ)の道(春)



飛び石(夏)



出雲路橋付近(秋)

そのためには鴨川とまち・人とのかかわりの歴史やその中で育まれてきた優れた文化、豊かな自然環境など、鴨川について知ることが大切です。

また、鴨川は、「山紫水明」と言われる京都の美しい風景に無くてはならない存在です。人口140万人を超える大都市京都にあって、多くの動植物が生息・生育する豊かな自然環境を有し、訪れる人の心を和ませ、開放感を与える貴重なオープンスペースとして、年間約300万人もの多くの人々に親しまれています。

わたしたちは、京都の貴重な財産である鴨川を守り、よりよい河川として育て、後世に伝えなければなりません。



出雲路橋付近(冬)